


 令和6年
 3月発行

サポよこ通信

サポよこは、働きたいという希望をもつ若者の就労支援を行っています
 （対象年齢 15歳～49歳）



『ことば はなくても』

サポステよこて は平成26年4月に開所して、この3月で丸10年になります。その間、横手市当局や関係する諸機関には多くのご支援をいただき大変に感謝申し上げます。また、この仕事に関わってきた多くのスタッフの献身的な働きも忘れるわけにはいきません。

サポステに来所される多くの利用者は、自立をするための手段の一つとしてなんらかの仕事を見つけ、自分なりの生き甲斐と生計に資するものを探し求めてやってきます。その目的自体はみな共通ですが、一人一人が置かれている立場と状況が異なるために、目的に辿り着くまでのアプローチは様々です。

しかし、10年間の軌跡は、そこに求めて止まない大きな課題があることにも気づかせてくれたような気がします。ここでは、その課題の一つについてお話ししてみようと思います。

「あなたはイヌ派？それともネコ派？」もちろん、これはイヌとネコのどちらが好きか？という質問です（世の中、派閥解消の議論が沸騰中ですが）。私は迷わず「ネコ派」です、と答えることにしています。それというのも、我が家には、私より年上のトラ猫(名前はミッコ)が一匹、一緒に暮らしておりました。そのネコは、祖母が同じ丁内のお宅からまだ目が開かないうちにもらってきたと言っていました。私が生まれる前のことです。つまり、私がものごころついたときには、すでに立派な成猫になっていたわけで、「飛ぶ鳥を落とす勢い」ならぬ、スズメを銜(くわ)えてくる、隣の家からは夕飯のサンマを失敬して得意そうに持ってくる、天井に這い上がってネズミを追いかけて回すなど、なかなかのネコぶりを発揮していました。

そして私が抱こうものなら、カッと眼を見開き周りをキョロキョロ、警戒を怠りません。そのミッコも祖母に対してだけは、とても従順で絶対服従を誓っているかのような様子でした。祖母を安心しきって見つめる眼差しと態度が、私に向けるそれとはまったく違うことに、感嘆と驚きの気持ちを抱いていました。この二人(ひとりと一匹)の信頼関係にはとっってもかなわない、と諦めていました。そのミッコも、私が中学1年生のときに老衰で眠るように逝ってしまいました。17年の生涯で、そのときの祖母の寂しそうな顔は今でも覚えています。

ところで、人は他人との信頼関係をどうやって築くのでしょうか。様々な見方があるとは思いますが、やはり「ことば」＝「言語」を介して対話をしながら、「ことば」以外にも自分と相手の「表情」や「身振り手振り」、「態度」でコミュニケーションを取る中で信頼関係を築いていく、といったところかと考えられます。このように「ことば」以外による部分は「非言語コミュニケーション」と呼ばれていますが、信頼関係の構築には、この「非言語コミュニケーション」が重要な役割を担っています。面接で「私は、～ということで御社に貢献したいと思います」と言ったときに、無表情でそっけなく言う人と、笑顔を見せながら、(私はワクワクしているんです)という表情を見せた人では、面接官の心境には天と地の違いが出るでしょう。喜怒哀楽は人間としての根源ですから、それを素直に的確に相手に伝えられる人は、うまく人との信頼関係を築くことができるでしょう。喜怒哀楽の度合いの強弱を補うものは、もちろん発する言葉そのものです。相手の気持ちを汲み取りながら、その加減を身に付け体現していくことです。

今、思い返せば祖母とミッコとの信頼関係は、ことば はなくても、この非言語コミュニケーションによるもののような気がしてなりません。

最後になりましたが、この10年間ほとんど何もできませんでした。実に多くの方々にとくさんのお世話になりました。相寄り添いながら互いに支え合うことのできる人間社会を具現する努力を惜しまない皆さんに、最大の敬意を表しながら筆を置きたいと思います。これまで本当にありがとうございました。

令和6年3月1日

 秋田県南若者
 サポートステーション
 よこて


センター長 草薙 正哉